



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

2018年度活動報告 CJP授業 : 総合日本語1

著者	志村 ゆかり
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	66-66
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028100

2018 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 1

志村 ゆかり（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

総合日本語 1 では、初級前半の表現を使って、簡単な日常会話ができるようになること、身の回りのことについて、ある程度まとまった内容が表現できるようになることを目標とし、日本語の基礎的な文法・語彙の知識を活用する四技能の活動を行った。

授業は 1 週間に 5 コマで、2～3 コマで 1 つの課の文法・語彙学習を進めた。また、作文には 5 コマのうち 1 コマをあて、聴解と読解は文法・語彙学習のあとに 0.5 コマずつ時間を設けた。基本的な進め方として、学期の前半は、『みんなの日本語 本冊』Ⅰ・Ⅱの 20～27 課、後半は 28～35 課を範囲とし、総合的な運用活動として、並行クラス（3 クラス）の合同授業を行い、日本人の学生ボランティアを招いて、ポスター発表を行った。

2. 授業内容

テキストの進め方としては、語彙導入は運用を目的に「ことばの練習シート」を用いてグループワークをしたり、みんなで使い方を議論したりした。また、文法に関しては、できるだけ活動を多く取り入れるように試み、例えば教室を出て、キャンパスにいる日本人学生にインタビューをしたり、ホームステイ先に、街中で見つけた看板などの漢字の読み方や意味を尋ねる活動を取り入れた。読解は、「多読」を取り入れた。精読ではなく、日本語で読むことの楽しさを知ることを目的とし、各学生にポートフォリオとして毎回コメントを残してもらい、振り返りも行った。聴解も、テキストから離れて、日本語を楽しみながら聞いて学ぶことを目的として、YouTube などを利用して、学生の興味のある聴解教材を学生自身で持ち寄ってもらった。作文についてはアイデアをアウトライン化したものを学生同士で交換し、相手にもアウトラインから作文してもらった後、自分で書いた作文と比較して、リライトすると活動を行った。

3. 成果と今後の課題

成果は、自律的に日本語を学ぶ力と運用する力がついたことである。一方、アンケートで、文法については、運用力育成の前に基礎的な文法の詳しい説明を求める声があった。また、作文の進め方に関し、学生同士のシェアが難しいとの声もあった。今後は、基礎力の安定を課題に授業運営を検討したい。